

会議結果報告書

令和2年8月28日

会議の名称	令和2年度第2回志木市男女共同参画審議会
開催日時	令和2年7月28日(火) 14時00分～15時00分
開催場所	志木市役所第1庁舎 会議室1・2
出席委員	福永信彦委員、山口敬二委員、隅田由香利委員、北澤恭子委員、山口博文委員、小柴孝子委員、中西喜代子委員、斉藤篤志委員、磯山道則委員 <p style="text-align: right;">(計 9人)</p>
欠席委員	工藤晴香委員 <p style="text-align: right;">(計 0人)</p>
説明員職氏名	人権推進室 藤崎主任 <p style="text-align: right;">(計 1人)</p>
議題	(1) 協議事項 第6次志木市男女共同参画基本計画(素案)について (2) その他
結果	<p style="text-align: right;">(傍聴者 0人)</p>
事務局職員	人権推進室 醍醐室長、本間主査、藤崎主任
審議内容の記録(審議経過、結論等)	

1 開会

2 挨拶

3 議題

(1) 第6次志木市男女共同参画基本計画（素案）について
（事務局）

資料について説明。

（会長）

質疑はあるか。

（委員）

26ページと27ページに計画の指標が掲載されているが、現行の計画と同じ指標については、同じ目標値である。また、乳がん・子宮頸がんの受診率の目標値が「増やす」としか記載されていない。

（事務局）

事前に送付した資料では、目標値を「増やす」と記載していたが、担当課から意見があり、本日配布した資料では目標値を50%と修正している。目標値は他の計画との整合を図りながら、設定している。

（委員）

他に事前に送付した資料と変更した点はあるか。

（事務局）

大きく変わった点は、乳がんと子宮頸がんの検診の受診率の目標値の設定である。また、志木市配偶者暴力相談支援センターの認知度を図る指標を入れていたが、担当課と相談し削除した。

（委員）

目標値が設定されていることはわかりやすいが、この目標値はどういった根拠で設定されたのか。

（事務局）

19ページと20ページに現行計画の達成状況を掲載している。この5年間の達成状況を参考に、担当課と協議して設定した。

（委員）

乳がん・子宮頸がんの検診の受診率については、例えば職場の健康診断で検診した場合は含まれないのではないか。

(委員)

市で把握できるのは国民健康保険対象のものだけではないか。

(委員)

そうであれば、現状の割合が少ないのは、当然だと思われる。

(事務局)

数値の詳細については、担当課に確認する。

(委員)

令和7年度までの目標値が設定されており、先程の説明で、毎年進捗状況を確認するとあったが、意識調査は毎年行うのか。

(事務局)

意識調査は5年に1回行う。毎年、数値が出せる指標については、毎年確認する。

(副会長)

3ページの「4計画の推進体制」の中で、志木市男女共同参画基本計画策定委員会を掲載していないのはなぜか。

(事務局)

志木市男女共同参画基本計画策定委員会は、計画の策定時にしか開催されないため、推進体制には載せていない。

(副会長)

保育園と、学童保育クラブの待機児童数の目標値が0人となっているが、この0人は少子化の影響なのか。

(事務局)

現在、最上位計画となる第五次志木市総合振興計画の後期計画を策定中だが、その中で担当課がこの指標を作成し、目標値を0人と設定している。

(副会長)

36ページに「DV被害者に対する相談・支援体制の充実」があるが、現行計画にある、「志木市のDV被害者支援体制」の図が載っていないのはなぜか。分かりやすい図だった。

(事務局)

掲載を検討する。

(委員)

47ページに「志木市男女共同参画推進月間事業の認知度」とあるが、条例を確認したところ、6月が男女共同参画推進月間となっていた。認知度を上げるためにも、このページに6月と明記した方が良いのではないか。

(事務局)

明記する。

(委員)

今年は事業を実施したのか。

(事務局)

新型コロナウイルス感染症の影響により、どの事業も中止になった。

(委員)

市民意識調査の回収率が38.9%というのはい多いのか。また、回答者の年齢層はわかるのか。年齢層がわかれば、学校現場やシニアなど、どのターゲットにアクションした方が効果的なのかが把握できると思う。

(事務局)

市民意識調査の回収率について、前回の策定時は46%であったため減ってはいるが、志木市の人口からすると、志木市民全員に調査を行った場合との誤差を5%以下にするには、標本数が約400件程度が必要とされている。約390件集まっているので、標本数としては多くもなく、少なくもないと考えている。

回答者の属性については、43%が男性、57%が女性である。年齢は、70歳以上が28%、60～69歳が16%であり、ご高齢の方が多い。18歳～29歳は7.5%であり、若い方にはあまりご回答いただけなかった。

(会長)

アンケートを実施するときに、年齢は把握しているのか。

(事務局)

18歳以上の方で、なるべく均等になるように抽出している。

(会長)

どの世代をターゲットにプッシュすると良いかに結び付けられると良い。今日で素案の内容は決めて、微調整するのか。

(事務局)

本日の会議後、一か月程度で素案を固め9月に意見公募を実施する。

(委員)

「志民力人材バンクの活用者数」の現状値が7人とあるが、登録している方が7人ということか。

(事務局)

活用した人が7人である。現在、男性が93名、女性が65名登録され

ている。

(委員)

ほとんどの方が活用されていないのか。

(事務局)

現在は、審議会等の会議への支援に限定されているが、これに限定せず、もっと幅広く活躍してもらえるように担当課でも検討している。

また、第五次志木市総合振興計画にも志民力人材バンクの活用者数の指標があるが、目標値を検討中であるため、目標値が変わる可能性がある。

(委員)

14ページに「町内会における女性の会長・副会長の割合」や、「市議会における女性議員の割合」のデータが載っている。42ページに「政策・方針等の決定における女性の参画推進」でも課題として取り上げているが、これらのデータは指標としないのか。

(事務局)

市役所として取り組めることとして、「市役所における女性の役付職員」や「審議会等における女性委員の割合」を指標としている。

(委員)

この計画は、市役所として取り組めることだけの計画なのか。

(事務局)

市役所として取り組めるこれらの指標も、5年前から下がってしまっている現状である。まずは、市役所そのものの指標を目標値まで引き上げるということを市民に示すことで、市民にも男女共同参画を推進してほしいという意図で指標としている。

(委員)

それが伝わらないので、明記してほしい。

(会長)

ご検討いただきたい。他に意見はあるか。

(委員)

女性職員の登用の話が出たが、男性がどう、女性がどうではなく、人間としての能力や資質がベースにあると思う。

(委員)

最初に醍醐室長から話があったが、人事評価などの制度をきちんと整えないと、この指標の値を上げるのはなかなか難しい。補助金などの支援も考えられる。せっかくの計画であるので、そういったところをぜひご検討

いただきたい。

(会長)

他に質疑はないので、議事を終了する。

(2) その他

(事務局)

次回会議は12月頃を予定している。

4 閉会